

## 防災力向上と備えのための学生向けリーフレットの改訂 —市民の防災力向上に向けて その47—

正会員 ○ 伊村 則子\*1

地震防災 情報 大学生  
リーフレット 啓発 東日本大震災

### §1 はじめに

地震発生時の対応について、大学は防災情報を出しているが、内容は大学によって異なる。武蔵野大学の内容を充実させるために、2006年に学生の防災の現状をアンケートにより明らかにし、学生向けの防災リーフレットを提案した<sup>1)</sup>。その結果、2007年度より毎年4月に全学生教員に『武蔵野大学防災マニュアル(学生用)』<sup>2)</sup>を配布するようになり、5年が経過した。その後、緊急地震速報など新しい仕組みや帰宅困難の考え方が変わるなど社会状況が変化し、また避難訓練の実施開始や2012年度より2キャンパス化など本学の状況も変化したこともあり、2011年東日本大震災下での本学学生の震災体験と防災リーフレットの活用状況を調査し、改訂を行った。

### §2 現行リーフレットに関するアンケート調査

#### 2.1 調査方法および回答者の属性

東日本大震災時で現行の防災リーフレット<sup>2)</sup>の活用状況をアンケートにより明らかにし、必要な情報や情報媒体などを検討し、改善することをめざす。アンケートは2011年7月に実施し、主な質問は①防災マニュアル②東日本大震災③大学で被災した場合についてである。

対象は防災の授業履修者53名で、環境学科/住環境専攻44名、同/環境学専攻6名、日本語・日本文学科1名、無回答2名である。学年は3年45名、4年6名、無回答2名である。男女比は男子19%(10名)、女子77%(41名)である。

#### 2.2 現行リーフレットに関する質問

現行リーフレットは授業でふれたこともあり、90%の学生が知っており、主な使用目的は「課題の参考」であり、49%が使用したことが「ある」、43%が「ない」という結果になった。使用したことが「ある」と答えた学生が見ている最も多い項目は、対応行動(初期行動/発災後の学内の場合の行動/発災後の学外の場合の行動)であり、発災時の行動を具体的に知りたい学生が多いことがわかる。さらに本震災の一連の地震で、現行マニュアルを使用したかをたずねたところ、全員が「使用していない」結果となり、この点に注目し、使用率が上がる提案をする必要がある。

次に防災リーフレットが必要かをたずねたところ、87%が必要と回答した。さらに、今後希望する供給形態とその理由をたずねたところ、「紙媒体」38%、「デジタル媒体」32%、「両方」17%となった。紙媒体を選んだ理由は、デジタル媒体の電池や電波を気にする声が多く、確実に見ら

れるものが欲しいという理由が多かった。デジタル媒体を選んだ理由には、携帯率・利便性の理由が多かった。また項目に設けていなかったが、紙媒体・デジタル媒体の両方を選んだ学生も複数おり、「デジタル媒体が見られなくなったときに紙媒体があると良い」などが理由である。

#### 2.3 東日本大震災に関する質問

当時知りたかった情報をたずねたところ、多かった順に「地震(余震)情報」「家族の安否」「交通情報」である。

次に、震災時に利用した情報機器は利用頻度の高かった順に図1の回答枝から上位3つを選んでもらった。1位携帯電話、2位テレビ、3位ノートPC、トータルとしてはテレビが多く38人となった。また、スマートフォン普及により、スマートフォンを1位に回答する学生も多い。さらに、情報機器の何から情報を得たか、利用頻度の高い順に10回答枝から上位5つまでを選んでもらったところ、1位TVやラジオのニュース、2位mixi、3位インターネット、4位メール、5位通話となった。従来のTVラジオのニュースに次いで、インターネットでのサービスツールを活用する傾向にあった。



図1 震災時に利用した情報機器

震災時にいた場所と利用した情報機器のクロス集計を行ったところ、携帯電話はどの場面(自宅、屋外、自宅以外の屋内)でも利用でき、また震災後には街頭モニターがニュースを流すことから、屋外でもテレビが活用された。

大震災体験後、非常持出し品を用意したかたずねたところ、「震災前から用意していた」9%、「震災を体験してから用意した」30%、「用意していない」59%となった。震災を体験しても「用意していない」学生が半数を超えた。

#### 2.4 大学で被災した場合などに関する質問

在校時の一時避難場所を「知っている」47%、「知らない」45%になり、「知っている」と答えた学生の正答率96%であった。広域避難場所は「知っている」17%、「知らない」72%と、知らない学生が多い。本学からの広域避難所は5カ

所であり、1つでも回答できれば正解としたが、「知っている」と答えた学生の正答率は44%と低かった。

次に、大学で発災した時に知りたい情報を15回答枝から上位5つを選んでもらった。図2のように1位家族の安否、2位地震(余震)情報、3位大学の対応、4位交通情報、5位避難経路となった。震災時に知りたかった情報も「地震(余震)情報」「家族の安否」「交通情報」は上位であり、大学内外関係なく必要とする情報は同じといえる。

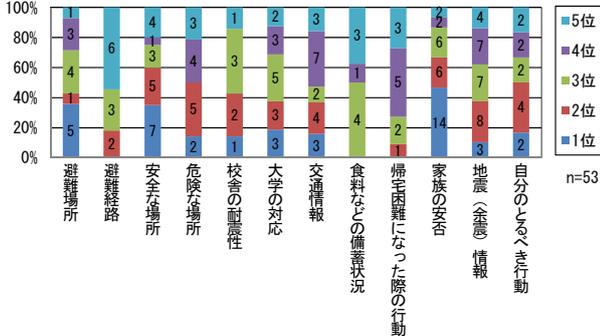


図2 在校時に地震が起きた場合知りたい情報

### §3 新防災リーフレットの提案

#### 3.1 構成案

上述のアンケート結果をもとに、武蔵野キャンパス版の改訂と新キャンパス版である有明キャンパス版を制作する。掲載項目の構成は、表1に現行と比較してまとめた。

表1のとおり現行『⑤日ごろから行うべき事』『⑧普段カバンの中にあると役立つもの・その他準備しておくことと良いもの』を廃止し、「緊急時に役立つ内容」に変更した。

表1 防災リーフレットの構成

	武蔵野キャンパス版	提案	有明キャンパス版
表面	①地震が起こったら(初期行動) ②学内で地震が起こったら(発災後) ③学外で地震が起こったら(発災後) ④安否情報 ⑤日ごろから行うべき事 ⑥警戒宣言 ⑦帰宅困難者 ⑧普段カバンの中にあると役立つもの・その他準備しておくことと良いもの	①もしも、地震が起こったら?(基本行動) ②学内で地震が起こったら?! ③学外で地震が起こったら?! ④安否情報を確認しよう ⑤連絡先・情報を確認しよう ⑥有明キャンパスのある江東区を知ろう ⑦こんな時はどうする?(その他編) ⑧応急手当の方法を確認しておこう	①もしも、地震が起こったら?(基本行動) ②学内で地震が起こったら?! ③学外で地震が起こったら?! ④安否情報を確認しよう ⑤連絡先・情報を確認しよう ⑥有明キャンパスのある江東区を知ろう ⑦こんなときはどうする? ⑧応急手当の方法を確認しておこう
裏面	・本学からの広域避難場所(地図) ・本学からの一時避難場所 ・松芝園グラウンド ・避難時に注意すること	・本学からの広域避難場所(地図) ・本学からの一時避難場所松芝園グラウンド ・緊急連絡先控え	・本学からの広域地図 ・有明キャンパスのある江東区に残留地区です ・緊急連絡先控え

現行『①地震が起こったら(初期行動)』『②学内で地震が起こったら』『③学外で地震が起こったら』は、アンケート結果から最も多く見られている項目のため、新リーフレットには、発災時の場面別行動を改訂して載せた。

また、現行『④安否情報』は、災害用伝言ダイヤルと災害用伝言板サービスの使い方が掲載されているが、新リーフレットには会社別・機種別の使い方を追記した。

新たに作った『⑤連絡先・情報を確認しよう』では、大学電話番号、ホームページ URL、MUSCAT(学内者向け)、twitterなどを記載すると共に、その他のインターネットサービスも活用することを促している。

武蔵野キャンパス版『⑥こんな時はどうする?(帰宅困難者編)』では、現行『⑦帰宅困難者』を大改訂し、帰

宅困難になった際の場合別行動指針を記載した。なお、災害時帰宅支援ステーションの解説も加えた。

新たに作った有明キャンパス版では『⑥有明キャンパスのある江東区を知ろう』を設け、土地柄、水害を考慮し、大雨や洪水が起きた場合に注意すべきことを記載した。災害時帰宅支援ステーションの解説も記載した。

『⑦こんな時はどうする?(その他編)』は両キャンパス同じ内容であり、現行『⑥警戒宣言』をもとに、警戒宣言と平成19年からの緊急地震速報を記載した。『⑧応急手当の方法を確認しておこう』は、災害時に使用しそうな内容を厳選して、応急手当の一連の流れを記載した。

裏面は、両キャンパス共に『緊急連絡先控え』を加筆した。武蔵野キャンパス版では、現行から引き続き、本学からの広域避難場所・一時避難場所を含む地図を掲載する。有明キャンパス版では、本学を中心とした広域地図を掲載し、地区内残留地区の解説を記載する。

#### 3.2 新案についてのヒアリング調査および完成

制作した新防災リーフレットを、防災ゼミ履修生(3年生10名)に示し、意見を集めた。両キャンパス版とも、内容として「わからなかった」項目はなく、「参考にならなかった」項目は未回答を除き、なかった。見やすさについては、文字は「もっと大きい方がいい」、デザインは「見やすい」という意見が多数であった。また挿絵が親近感と内容の理解を助けていることもわかった。有明キャンパス版のみの項目である『有明キャンパスのある江東区を知ろう』は、「わかった」7名、「わかりづらかった」2名、未回答1名となった。これより、新防災リーフレットを改訂した。構成は表1のとおりで、文字とレイアウトの変更を行ない、完成した新防災リーフレット一部抜粋を図3に示す。



図3 防災リーフレット(一部抜粋)

#### §4 まとめ

2006年度制作の現行防災リーフレットを改訂した。本報では紙媒体の提案であるが、補完としてホームページも併せて制作した。新リーフレットは大学webからダウンロードによる提供の予定であり、活用が望まれる。

本研究は当時当研究室卒論生近藤愛君の協力を得た。ここに感謝する。

#### 【引用文献】

- 1) 西川知恵, 伊村則子, 佐藤融紀: 東京近郊に通う大学生の地震防災に対する認識と行動—市民の防災力向上に向けて— その7—; 東京近郊に通う大学生向けの防災啓発マニュアルの提案—市民の防災力向上に向けて— その8—, 日本建築学会大会学術講演梗概集(都市計画), pp.377~378; 379~380, 2007年8月.
- 2) 武蔵野大学 学生課企画・広報課: 武蔵野大学 2011年学生手帳 武蔵野大学 学生課企画・広報課 2011年.

\*1 武蔵野大学環境学科 教授・博士(学術)

\*1 Prof., Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D